

研究所だより

第457号
2023年 5月 8日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が繁る

あれに見えるは 茶摘じゃないか

茜襷 (あかねだすき) に 菅 (すげ) の笠 ”

『茶摘 (ちゃつみ)』 1912年 (明治45年) 日本の唱歌



～新緑がまぶしい季節となりました！～

暦の上では「立夏」(6日)が過ぎました。庭先や野山ではさつきやツツジがきれいに咲きほころび、木々の緑は初々しく鮮やかな緑色となり、少しずつ夏を感じさせてくれる頃となりました。

各校では校長先生のリーダーシップのもと、学校教育目標・研究主題の具現化に向けてチーム学校で取り組んでいることと思います。

新型コロナウイルス感染症については5月8日から「5類」に引き下げられましたが、これからも一人ひとりが状況を把握し、必要に応じて基本的な感染対策(マスク、手洗い、うがい、3密回避、体調の管理)を心がけましょう。

いま必要な校内研修1 〔 保護者との連携 〕 「指導と評価」4月号より

か ゆ た お さ む
加 勇 田 修 士 さん
(日本スクールカウンセリング推進協議会理事)

1 人間関係づくり

エネルギーを与え合う「豊かな人間関係づくり」の第一は、アイメッセージを使ったワンネス (oneness)、ウイネス (weness)、アイネス (Iness) の関係づくり (実存主義心理学者ムスターカス) である。

次に「アサーション (assertion)」がある。アサーションとはコミュニケーション・スキルの一つであり、最近では企業や学校などさまざまな場面でアサーション・トレーニングが行われている。主張・断言などと和訳されるが、日本語としては少し強いため、アサーションと訳さずに言ったり、「(さわやかな)自己表現」と言うことが多い(2で詳述)。

人間関係の基本は、次の3つである。

①ワンネス：相手の世界を相手の目で見るとわかる (傾聴)

②ウイネス：私はあなたの味方です、という関係づくり

③アイネス：「私はこう思う、私はこう考えます」をアイメッセージで伝え合う関係

* アイメッセージ (わたしメッセージ) は自分の考えや気持ちを「語る」ことで、相手の理解を求める、相手尊重のメッセージである。したがって主語は「わたし」になる。「あなた」を主語とした表現はユー (あなた) メッセージである。「～しなさい」という命令や「～するものよ」という説教などは、すべてユーメッセージである。ユーメッセージでは、自分の本当の気持ちを「語っていない」。相手を自分の思い通りにコントロールしようとするメッセージで、親や教師の愛が伝わりにくいのである。ユーメッセージはアイメッセージに変えることができる。例えば、「提出物を期限までに出すのは常識だよ」を「あなたが期限を守らなくても平気な人になってほしくないな」、「うるさい、静かにしなさい」と言うかわりに「おしゃべりばかりしているとあなたがわからなくなるのではないかと心配だな」というように。

相手の行動とその影響、自分の感情の三部構成がアイメッセージの特徴である。自分を伝えることでコ

ミュニケーションは深まる。自分のメッセージを伝えるためには、自己表現を豊かにしたほうがよい。相手へ好意 (配慮や関心) を理解してもらえないからである。

2 アサーションとは (3つのコミュニケーションタイプ)

①アグレッシブ (攻撃的)

自分のことを中心に考え、相手のことはまったく考えないやり方である。例えば、失敗した人に対して、理由や言い分を聞きもせず頭ごなしに叱るような表現である。自分の気持ちを抑えずに表現しているが、自分の気持ちを考慮していないので、相手は不快な思いをする。また、怒鳴ったり威圧的な態度ではなく優しい口調で言ったとしても、相手に選択の余地のないような状況で頼み事をするなど、巧妙に自分の欲求を押し付けて、相手を操作して自分の思い通りに動かそうとする態度も含む (ユーメッセージ)。

②ノンアサーティブ (非主張的)

ノンアサーティブな方法とは、自分の感情は押し殺して、相手に合わせるようなやり方である。例えば、いつも友人に雑用を頼まれていやなのに、はっきりと断れずに引き受けてしまう態度である。一見すると、相手を配慮しているようにも見えるが、自分の気持ちに率直ではなく、相手に対しても率直ではない。自分の気持ちを抑え続けていると、しだいに欲求不満がつのり、相手に対して「ゆずってあげた」という恩着せがましい気持ちや、「人の気も知らないで」という恨みがましい気持ちになってしまう。

③アサーティブ

アサーティブな方法とは、自分の気持ちや考えを相手に伝えるが相手のことも配慮するやり方、自分も相手も大切にしたいやり方で「エネルギーを与え合うコミュニケーション」である。アサーティブな自己表現では、攻撃的な方法でも非主張的な方法でもなく自分の気持ち、考え信念に対して正直・率直に、また、その場にふさわしい方法で表現する。

しかし、どんなにアサーティブに表現したとしても、それが相手に受け入れてもらえるとは限らない。お互いが率直な意見を出し合えば、相手の意見に賛同できないことも出てくる。そのときに、攻撃的に相手を打ち負かしたり、非主張的に相手に合わせたりするのはなく、お互いが歩み寄って一番いい妥協点を探ることがアサーティブなあり方であると言える (アイメッセージ)。



3 保護者対象の研修

ストレスフルな社会の雰囲気は当然、子どもたちにも大きな影響を与えている。多くの人が目立つことや人と違うことを避け、人と同じようになることにエネルギーを費やしている。防衛的な集団は温かさに欠けているので居心地が悪い。ちょっとしたトラブルも大きな問題に発展しやすい。このような傾向に無関係であるかどうかまず保護者自らが自分の足元を見つめ、はたして子どもたちのモデルになっているかどうかを問わなければならない。保護者集団がこのままでいいかどうかを問うのである。保護者集団がまとまり始め、温かい雰囲気の準拠集団に成長できたとき、子どもたちの集団にも明るい展望が見えてくる。

保護者会が居心地のいい集団になるかどうかは、年度始めの親同士の出会いをどのようなかたちに設定するか、でほぼ決まる。もちろん年度途中からでも可能だが、すべての保護者が出席する入学式や年度始めの学級開きの際が最も効果的である。出会いのかたちは、構成的グループ千カウンター (以下SGE) による本音の交流体験が味わえるエクササイズを行う。

SGEがなぜ必要かを説明するときのキーワードは、「親が安定すれば子どもも安定する」を強調する。お互いに自分に自信が持てない、本音が出せない、と思っている間の雰囲気は固くてぎこちないが、少しずつ自分の考え・感情への気づきが増え、自己開示できるようになることでリレーションが深まっていく。できれば保護者会のたびにSGEを実施し、豊かな人間関係づくりの学習を加えることで、保護者グループの成長とともに保護者個人が成長するのである。

1. 第1回教研推進委員会

4月11日(火)に第1回教研推進委員会を開催し、役員選出、教研活動、補助予算、研究集録「清水の教育」等について協議・確認をしました。

(1) 教研推進委員

氏名	所属	役職	氏名	所属	役職
佐竹 正史	校長会(清水小)	委員長	福留 未佐	下川口小学校	委員
北代 可也	下ノ加江小学校	委員	橘 智子	清水中学校	委員
岡田 水砂	幡陽小学校	副委員長	宮上 美智子	教育委員会	事務局
西村 佳江	足摺岬小学校	委員	勝間 康人	教育研究所	事務局
岡田 佐知	清水小学校	委員	谷岡 大洋	教育研究所	事務局
岡 佐保	三崎小学校	委員			

(2) 教研等の日程

- ①各分会・研究協力校・研究会等代表者会：開催しない。(資料の配布とする)
- ②一日教研：8月2日(水) [午前：講演 午後：部会]
- ③半日教研：11月1日(水)
- ④総括教研：各分会で計画する。



(3) 2023年度補助事業(①教育研究推進事業・②教育研究活動事業)

- ①教育研究推進事業(土佐清水市教育研究集会・市教研関係)
- ②教育研究活動事業(研究協力校関係)

(4) 研究集録「清水の教育」について

- ・原稿はデータ化して研究所へ提出 *原稿提出締切(1月末)
- 各校へは、研究集録「清水の教育」(ファイル綴じ)1冊、CD1枚を配布する。

= 第73次土佐清水市教育研究集会・組織教研 =

4月19日(水)清水中学校を会場に「第73次土佐清水市教育研究集会・組織教研」が開催されました。今年度は、9分会74名でスタートしました。各分会では、組織作り・研究テーマ・年間計画・予算等について熱心な話し合いが行われました。

各分会の部長、部員数、研究テーマ、計画等を紹介します。

- ①国語部会 『読解力を高める授業方法の研究』
 西村 佳江 8月2日 講師招聘、指導案検討、情報交換
 (7名) 11月1日 研究授業(清水小：川村 碧人)
 1月未定 年間総括



- ②社会科部会 『社会科の指導法の研究』
 平林 也奈 8月2日 講師招聘、フィールドワーク
 (10名) 土佐清水市の偉人について生き方を学ぶ
 11月1日 研究授業(清水中)
 1月9日 年間総括



- ③算数・数学部会 『楽しく分かる 深め合う算数・数学授業の創造』
 東 淳一 8月2日 講師・中野俊幸専攻長(高知大学教職大学院)
 (11名) 算数数学の教材開発



- 11月1日 研究授業(清水中：上岡 栄二)、事後協議
 1月9日 年間総括 「清水の教育」原稿について

- ④理科部会 『わかる 楽しい授業づくり』
 奥谷 博史 8月2日 ジオフィールドワーク、ジオ学習の教材化
 (6名) 10月未定 指導案事前検討、情報交換
 11月1日 研究授業(清水中：三井 優子)
 1月11日 年間総括



- ⑤外国語部会 『小中連携を意識した授業づくり』
 今井 悠里乃 8月2日 講師招聘(西部教育事務所)、講話
 (10名) 11月1日 授業づくり講座(小中2本)
 授業について振り返り
 12月or1月 年間総括 「清水の教育」原稿について



- ⑥情報教育部会 『ICTを活用した探究的な授業についての研究を深める』
 増山 賢太 8月2日 実践発表 指導案検討(単元・本時の流れ等)
 (10名) 11月1日 研究授業(三崎小：増山 賢太)
 事後研修 実践交流
 1月18日 年間総括



- ⑦教育相談部会 『人間関係を考える 一見る・聴く・つなぐ』
 東 眞由美 8月2日 講師招聘(井上貴美先生)、情報交換
 (9名) 11月1日 研究授業(清水中：小橋 歩)、情報交換
 1月12日 年間総括、「清水の教育」原稿検討
 情報交換



- ⑧養護部会 『地域に根ざした健康教育「メディアと子ども」その利用課題への取り組み』
 末廣 優乃 6月1日 研修内容の詳細、昨年度までの作成物等の確認
 (6名) 8月2日 一日教研(ポスター作成)
 10月10日 部会研修(教材の活用方法について)
 11月1日 半日教研(実践交流)
 12月12日 幡多地区養護部会発表に向けて
 1月11日 総括教研(「清水の教育」原稿について)
 2月20日 部会研修(次年度に向けて研修内容や役職など確認)



- ⑨事務部会 『「学校事務をふかめる」
 一組織の一員としてできる学校事務を考える』
 中村 盛二 (5名) 8月2日 人権教育・ジェンダーについての学習
 11月1日 学校事務冊子の研究
 1月12日 年間総括

